

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

保護者・生徒から、「入ってよかったと思える学校」、地域社会からは「信頼出来る学校、頼りになる学校」となることをめざす。  
 そのため、総合学科の特性を生かし、多様な学び、主体的な学びを通して学習意欲を高めるとともに、キャリア発達の支援を通じて個々の能力・適性を伸ばし、地域社会との連携を深め、時代や社会の要請に応えることができるよう「生きる力」を育む。  
 また、創立の経緯、そして「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」実施校としての実績を踏まえ、多面的な人権教育を展開し、人が繋がることの大切さ、素晴らしさに気づかせ、「豊かな人間性」を育む。

### 2 中期的目標

(1) 確かな学力を育む・・・総合学科の特色を生かし、自ら考え自ら学ぶ「確かな学力」をはぐくむ。

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、総合学科の特色を生かした教育課程を編成し個に応じたきめ細かな教育活動を展開する。
  - ・習熟度別少人数授業の実施、多様な選択科目の開設により基礎・基本の学力の定着を図る。
  - ・必修履修、共通履修そして選択履修科目のバランス良い履修、進路実現をめざした履修が可能となるようカリキュラムを編成しガイダンスに努める。
- 学習環境を整え、よりよい学びの姿勢を追求する。
- 授業力向上に取り組む。
  - ・経験豊富な教員の大量退職、初任者の増加を踏まえ、教員相互の授業見学の実施や研究協議などを通し、教員の授業力の向上を図る。
  - ・授業アンケートを活用した授業力向上の取組みについて研究する。※授業アンケートを活用し授業改善について年 2 回の研究協議を定着させる。
- ICT を活用した授業の推進
  - ・学習効果を高めるため、ICT 機器を積極的に活用するとともに、生徒自身の ICT 活用能力を高め、プレゼンテーション能力をより一層高める。  
 ※ 3 年後には、座学担当の 3 分の 2 の教員が ICT 機器を活用するよう取組みを進める。

(2) 「志」や「夢」を育む・・・主体的な社会の形成者となるべく、「志」や「夢」をはぐくむとともに、自主的自律的態度を養う。

- キャリア発達を支援する体制と指導計画の充実
  - ・「社会への扉」や「課題研究」の取組みの充実を図るとともに、「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し就職・進学双方の進路実現を図る。  
 ※3 年後には、一次試験の段階で就職内定率を 75%にする。進学面では、公募制推薦、一般入試合格者を 2 桁台にする。
- 人権意識、規範意識を高める。
  - ・体験的学習など、多様かつ多面的な人権教育を進める。その際、多数の外国籍生徒が共に学ぶ学校として、多文化共生教育を推進する。
  - ・一人ひとりを大切にする生徒指導を実践、生徒理解をもとに規律・規範意識を確立し遅刻者の減少に力を入れる。※3 年後に遅刻者数半減をめざす。
- 生徒集団づくりや生徒主体の活動を推進する。
  - ・生徒の自主的グループ活動等を行えるよう環境整備を行い、人がつながることの大切さ、触れ合うことの大切さを学ばせる。
  - ・部活動の活性化と生徒委員会活動を充実させ、生徒相互啓発による教育効果を高める。 ※3 年後には、部活動の参加率を 6 割台にのせる。
  - ・スピーチ活動やプレゼン活動を積極的に取り入れ、生徒の対人関係能力を高める。
- 教員自身の能力を高め、生徒・保護者の多様なニーズに応えることができるよう、自己研鑽、人材育成に努める。
  - ・平均年齢が 30 歳台であることを踏まえ、若さとエネルギーに満ちた行動力を生かせるよう、経験豊富な先輩教員による授業、担任や分掌業務についての指導、OJTを通じて、教師力の向上を図る。

(3) 保護者や地域との連携。開かれた学校づくりと広報活動の充実。

- 家庭や地域との連携・協力体制を充実させ、生徒の自立を支援する。
  - ・保護者とは懇談会だけでなく密に連絡を取り合い、生活指導や進路指導・学習指導など多面的な指導について連携を図る。
  - ・中学校との連携を充実させ、中学校の取組みを高校でも生かせるよう連携を深め継続的な指導を展開する。
- 総合学科の特色や本校の指導内容など、保護者や中学生への情報提供に努める。
  - ・授業公開、体験入学に取組みアンケート等をもとに授業改善に取り組み、中学への出前授業も行う。※3 年後、体験授業参加者の半数の受験をめざす。
  - ・定期的に中学校との情報交換を行い、本校の取組みを説明し、進学説明に出向く。その際、入学者選抜制度の改編についても丁寧な説明を行う。
- その他関係機関との連携
  - ・地域教育協議会に積極的に参加し、地域の子どもたちを協力しあいながら育てていく。
  - ・選択科目や部活動などで他の施設・機関と相互に連絡を取り合い、活動の活性化に向けた取組みを展開する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 1 学年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「帰国生等が身近にいるメリットを活かし国際交流に工夫を」との提言を踏まえ、学年行事として交流行事を実施。結果「自然に交流が行われている」が 67%に急増。一方、部活動への参加意欲は 41%と低い。ただ、朝練を開始した部もあり、今後期待。</li> </ul> </li> <li>○ 第 2 学年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全設問の 89%で肯定的意見が増加。とりわけ進路の取組を強化したことから、進路情報の提供、進路や生き方について考える機会の設定について 86%以上が肯定。</li> <li>・修学旅行、遠足の全員参加等まとまりのある学年であることが診断結果からも。</li> </ul> </li> <li>○ 第 3 学年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学以来の診断結果を振り返ると、「学校が楽しい」が 10%上昇し 77%に。本校の特色についても最低値から 13%上がり 76%に。総合学科の特色を体感したと認識。</li> <li>・生徒会活動への関与は 26%から 65%の大幅増で、最上級学年としての自覚を持ち行動できた結果と推察</li> </ul> </li> <li>○ 全学年にわたり、進路、人権教育、生徒としてルールを守れたという数値が増加。</li> </ul>	<p>第 1 回 (5 月 26 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路状況に関わって                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーターのほとんどが、専門学校進学、海外留学に必要な費用を稼ぐ等の目的を持つと聞いた。明確な目的があれば一時的な就労は意味を持つ。マイナスイメージでひとくりされないう、イメージを変えていくこと必要。</li> </ul> </li> </ul> <p>第 2 回 (10 月 15 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の取組みについて                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージ研修のように、実践と検証を繰り返していくことは重要。また、ディベートの取組みを通し、冷静に意見を述べる訓練、小論文で自分の意見をまとめる力を身につけることも重要。→学校：今後とも継続して取組む。</li> <li>・八尾北がめざす「確かな学力」について教職員が共通認識を持つことが組織として大切。→学校：次年度議論へ。</li> </ul> </li> </ul> <p>第 3 回 (平成 27 年 1 月 26 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育自己診断等について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率が非常によい。・生徒・保護者の意見を見ると、年々学校が良くなってきているのがわかる。進路希望調査でもかなりの希望者がいる。先生方もこのことを誇りに思っており取り組んで欲しい。・八尾北高校が育てたい生徒像を皆で共有することが大切。数字も大事だが、数字に現れない優れた活動、感動的なドラマもあって良い。</li> </ul> </li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「確かな学力」を育む	<p>(1)「わかる授業、学びとる授業」をめざしたよりよい授業の追求</p> <p>ア、授業改善プロジェクトチームを設置。</p> <p>イ、公開授業を活用した授業改善の取組みの推進。</p>	<p>ア・授業改善担当首席を中心に学習指導部、教科代表によるプロジェクトチーム（11名）を立ち上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記PTを中心に取組みテーマとして                     <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の指導力向上</li> <li>②生徒の主体的学習活動の促進</li> </ol> </li> </ul> <p>の2本柱を掲げ、具体的な活動内容、年間計画を策定するとともに、取組みの進行管理を行う。</p> <p>イ、上記取組みを具体的に進めるため、公開授業期間を活用し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベテラン教員の実践に学ぶ</li> <li>ICT機器の活用</li> <li>グループ学習の実施</li> </ul> <p>等について、各教科でモデル授業を構築する。また、定期的に全教員での研究協議を行い、到達点を共有するとともに次なる取組みに繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その際、授業アンケートや学校教育自己診断を活用し、取組みの効果を検証する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>a. プロジェクトチームの取組みテーマに関するリサーチ数、取組み実践事例数。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で最低1つのモデル授業を実施。</li> </ul> <p>b. 学校教育自己診断における</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用認識度の上昇（昨年60.4%→70%台に）</li> <li>グループ学習等についての評価度の上昇（昨年58.9%→70%台に）</li> <li>授業アンケートにおいて、モデル授業実践者の評価の上昇と全体平均の上昇</li> <li>授業見学の認知度の上昇（昨年43.9%→55%に）</li> </ul>	<p>a. プロジェクトチームの活動と教育センターのパッケージ研修とを連携させ授業改善に取組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育センターから、協議、研修時に東大と埼玉県との連携授業を含め、府内外の取組事例の紹介を受け参考に。これらの情報に触れ教員からは次年度の取組み案の議論もなされる(◎)。</li> <li>公開授業週間を活用し、各教科で代表者を決め授業見学を行い教科内で協議を行った。(○)</li> </ul> <p>b. 学校教育自己診断結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用の認識度は1年で71%、全体でも68%に増加(○)</li> <li>グループ学習等については、70%に届く学年もあった(◎)が、学年の加齢による特性から学年差があり全体としては56%で減(○)</li> <li>モデル授業者の授業アンケート結果は大幅上昇(◎)。全体平均も昨年度より0.05ポイント(100点換算で1.67%)上昇(○)。</li> <li>授業見学の認知度は37%と減(△)で課題</li> </ul>
	「世」や「郷」をはぐくむ	<p>(1) キャリア教育の充実</p> <p>ア、進路実現に向けた意識の醸成。</p> <p>イ、進路突破力の獲得</p>	<p>ア、入学時からの系統的な取組みによる進路実現に向けた意識を醸成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「社会への扉」の系統的実施と今日的状況を踏まえたモデル教材の作成、活用。</li> <li>リサーチ活動による主体的な進路情報の獲得</li> <li>必要な時に必要な進路情報の適切な提供</li> </ul> <p>イ、社会人として必要とされる社会人基礎力の獲得と進路実現に向けた個に応じた支援の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「社会への扉」、「課題研究」の充実</li> <li>発表力、プレゼンテーション能力の育成</li> <li>進学、資格取得をめざした「補習」の早期実施。</li> <li>就職、進学面接の強化・・・「面接個別カルテ」の作成と効果的活用。</li> <li>一般入試を睨み校外模試への参加の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HRや「社会への扉」でのスピーチ活動の回数。</li> <li>「課題研究発表大会」で全生徒が無原稿で発表する。</li> <li>進路情報の提供に関し、自己診断数値を上げる。</li> <li>就職決定率90%以上</li> <li>進路未決定者数1桁台をめざす</li> <li>大学進学決定率90%以上維持。</li> <li>医療系専門学校進学決定率90%以上を維持。</li> <li>英検受験者を2桁台に</li> <li>校外模試参加者を年間3桁台に</li> </ul>
<p>(2) 人権意識を高める</p> <p>工、多様な人権教育を進め豊かな人権意識の高揚を図る</p>		<p>ウ・人権教育担当者会議を中心に人権教育の効果的な取組みを実施。その際、府の「安全安心事業」を活用する。また、全府的に初任者が増えていることを踏まえ、校内、校外発信に努める。</p>	<p>(2) 府の「安全安心」事業とも連携した取組みを行い、取組みを発信する。学校外での発信件数を今年4件→6件に増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心事業で2回、府立人研で1回。府外教で1回。府立外教で1回。府教委の人権研修を本校で実施1回、他校に招かれての出前研修1回</li> <li>他府県、他校からの訪問受けを含め計10件(◎)。</li> </ul>
<p>(3) 規範意識の醸成と生徒支援体制の充実</p> <p>オ、生徒指導の充実</p> <p>カ、個に応じた支援の充実</p>		<p>エ・職員全員での登校指導等に加え、遅刻指導、自転車マナー指導、ネット依存防止に力を入れる。また、行事におけるマナー指導の強化を図る。</p> <p>オ・相談しやすい環境を整備するとともに、全学年主任連絡会で常時情報交換を行い、必要に応じて相談係と連携し、都度「ケース会議」を開催し対応し、対応事例集としてまとめる。</p>	<p>(3) ・遅刻件数年間4500件未満をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>携帯指導件数を減らす</li> <li>指導の重要性 自己診断数値を75.3%→80%へ。</li> <li>自己診断項目の教育相談に関する数値を28.7%→35%に。</li> <li>事例集を成果物として作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻件数は昨年末で2974件。2年間で半減(◎)。</li> <li>携帯指導件数は意識の定着により減(○)。</li> <li>指導の重要性 自己診断数値が76%と微増(○)。</li> <li>教育相談に関する数値は、教育相談室、SCの認知度に特化せずに担任等への相談のしやすさで調査を実施。結果7割超えの高い値に(◎)。</li> <li>今年は生徒指導を巡り外部機関・施設と連携することが多かった。これらの実践はケース会議等の資料と併せて整理しファイリングを行った(○)。</li> </ul>
<p>(4) 集団への帰属意識の向上と自主活動推進</p> <p>キ、集団行動、仲間づくりとしての行事、部活動の活性化</p> <p>ク、生徒会を中心に委員会活動を実施</p>		<p>カ・体育祭、文化祭行事を活用した生徒の自主的自律的運営能力の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や学年でキャンペーン等による部活動の活性化</li> </ul> <p>キ・生徒会を中心とした各種委員会等活動を活性化し、特に今年は校内外の清掃活動に力を入れ、伝統的活動にまで高める。</p>	<p>4) ・部活動加入率を通年で5割超えをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会諸行事に対する生徒アンケートを実施。肯定率80%以上をめざす。</li> <li>委員会活動、校内外で取組を実施。</li> <li>他校との生徒会交流を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入率は通年で5割を下回ったが、2クラブで朝練をスタートし、深まりが出てきた(○)。</li> <li>体育祭、文化祭の評価、肯定率は8割超え(○)</li> <li>保健委員会が校内外の清掃活動を実施。文化祭でも発表。</li> <li>図書委員会は、府立図書館の紹介ポスターに応募。金賞、銀賞をもらう(○)。</li> <li>他校との生徒会交流を今年も実施(○)。</li> </ul>
保護者や地域との連携。開かれた学校づくりと広報活動の充実	<p>(1) 保護者との情報連携による成長支援</p> <p>ア、懇談会等を通じた情報・対応連携。</p> <p>(2) 開かれた学校づくりと広報活動の充実。</p> <p>イ、ホームページの再構築</p> <p>ウ、公開授業の実施工、中学校、地域等との連携。</p>	<p>ア・年度当初早期の保護者懇談にて協力体制を構築し、長期欠席、成績不振、指導事案等必要に応じて家庭訪問や関係機関とも連携し、生徒の自己実現に向け取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や生徒たちの様子、日程変更等の情報をメルマガにて保護者に送信し、保護者の理解と協力の促進に繋げる。</li> </ul> <p>イ、ホームページをリニューアルし、保護者向け、生徒向け、中学生向け等に情報を整理し、適時性をもって更新する体制をつくる。</p> <p>ウ、外部に向けた公開授業を年2回実施し、その際、本校の特色や生徒の頑張りを紹介する。</p> <p>エ・地元中学生や小学生の学び意欲向上につながる取組みに積極的に参画する</p>	<p>(1)(2) ・全員の保護者と懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進級率98%以上をめざす</li> <li>停学事案の2割減をめざす。特に校内事案を1桁台に。</li> <li>校長だより、メルマガ等を定期的に発信し購読者の定着を図る。</li> <li>ホームページの日の更新を週1回以上、平均アクセス数を80以上に。</li> <li>中学校が実施する進路希望調査の希望者数、入学者選抜志願者の増加</li> </ul>	<p>(1)(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土曜日等を活用し全員の保護者と懇談(○)</li> <li>進級率は年度末で98.6%(○)。</li> <li>停学事案は年末で10件。2割減で推移(○)。</li> <li>校内事案は1桁台(○)。</li> <li>本校のホームページ上に上げている校長だよりは土日を除き毎日更新。1日あたりの平均アクセス数は土日を含め150件を超えている(◎)。</li> <li>HPの更新は「校長だより」により毎日更新を実現。月別フォロワーは1000名に(◎)。</li> <li>第2回進路希望調査では、倍率が昨年度1.2倍が今年1.45倍に増加(◎)</li> </ul>